

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874700426		
法人名	かすみ福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム赤とんぼ		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区守柄1351番地		
自己評価作成日	平成23年6月7日	評価結果市町村受理日	平成23年8月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874700426&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成23年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が寝たきり状態になっても、介護支援を行う。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大自然の環境に包まれ、古家を改装した馴染み深い建物の中で、利用者のために、家族の介護負担、経済負担がかからない為に、という管理者の方針が事業所の軸となり、運営や日々のサービスが行われている。利用者が重度になっても最後まで見ていきたいという管理者の熱意で、終末期に向けての方針が明確に伝わっている。職員の定着率もよく、更なる職員の専門性と資質向上のために、外部の研修を受講したり、事業所内での勉強会の開催などに関する取り組みに大いに期待が持てる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	充分とは言えませんが、概ね理念を共有していると思います。	管理者は、利用者を最後まで看取りたい、家族の負担を軽減したいという強い思いと、熱意をもって実践されており、その思いは、日々のケアの中で職員全員に伝わっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではありませんが、部落の行事ごとに参加しています。	地域の餅つき行事や公園、公民館へ出かけたりしている。地元の病院も利用しているが、今後はより地域の住民や近隣の人たちとの交流事業にもできるだけ参加したいと考えている。避難訓練には、近所の方も協力してくださる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は2～3回程度であります。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回です。小規模多機能設立の検討を行いました。	構成メンバーが少なく、開催回数が年2回となっている。開催時には、事業所での行事や利用者の様子などについて話している。	地域の中で、認知症ケアを通して事業をしていく上で、より多くの地域の方にも参加いただき、地域包括支援センターや地元の方やボランティアの方等にも声かけをされてもいいのではないかと。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	全く出来ていません。	毎月開催される会議にできる限り出席しているが、できない時は、書面等で連絡をしている。実情やケアサービスについて積極的な伝達はできていないが、必要な場合には、連絡をとっている。	管理者の会合への参加に加えて、他の職員も出る機会、連絡等で情報の共有をする機会を作ることや協力関係の構築、協力関係を築くことにもつながるように取り組んでほしい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしています。帰巢症状が激しい人がおられますので、やむを得ません。	身体拘束のないケアについては、日頃から管理者は職員に向けて話している。職員も理解はしているが、定期的な研修や話はできていない。	日々の職員との会話に加えて、定期的な勉強会の機会を作り、確認することもより良いサービスを継続して提供の上で重要ではないかと思われるので、今後の取り組みに期待したい。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	あまり有りません。逆に激しい抵抗にあっています。	高齢者虐待について、基本的な考え方や防止の徹底についての自覚はあるが、事業所内外での研修などは行われていない。また、外部研修参加後の記録の共有や保管についても今後の取り組みに期待したい。	管理者はじめ、職員は研修や確認の必要性は感じている。いろいろな職員が事業所内外で研修を受講したり、また、その内容を伝達研修を行うことで、より良いサービスの提供ができるように期待している。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度1回もありません。	現在、利用の方はおられない。また、権利擁護に関わる制度や内容について学ぶ機会はない。	現在、対象の方の利用はないが、今後も含めて内容を知り、必要な時に活用できるようにしておくことは重要なことである。管理者もその必要性を感じているので、今後の取り組みに期待したい。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に行っています。	契約前の見学や、面談など、本人家族との十分な話や内容の説明は重要と考えている。十分に時間をかけて説明を行い、納得していただいて、契約になるように注意して進めている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的に行っていません。	利用者や家族から改めて意見や要望を聞く機会として、アンケートや意見箱等、その機会はつくっていない。日頃の会話の中での話にとどまっている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映しています。特に緊急医療保護関係が主です。	管理者は、職員と共に昼食をとりながら、ケアの在り方や運営についての考え方等について、話をしながら職員からの意見なども聞く機会としている。定期的な会議はないが、日頃の会話から意見や提案考え方などを組み上げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員体制の問題があり、十分とはいえません。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年はあまりありません。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に注意し家族にも協力をえています。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話などを通じて関係づくりを行っています。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは利用してません。満5年を経過しましたので、支援はそれなりに出来ていると思います。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にそのような関係を築くように努めています。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なかなか困難ですが大切なことと思っています。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係は限られています。	利用者の入居までの生活の中での馴染みの人や思い出の場所等の関係が途切れないような支援は、以前通っていた病院への通院介助などにとどまっている。	利用者の以前の生活や場所についての関係が途切れないような関係継続についての話や可能な支援について、家族や職員と話をされることから取り組まれることを期待したい。
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寝たきり以外の人を除いて支え合う気持ちを持つように心がけています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一人のみフォローしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	充分とは言えません。	利用者個々の、今までの生活環境や家族構成や生活歴、性格等から、その場その場での利用者の希望や思いを把握できるよう、日頃の暮らしの中での会話や行動からその意向をくみ取れるように努力し、本人の希望に沿うようにしている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	共に生活していれば理解できます。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	絶えず観察してるので把握出来ています。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一つ課題をもうけ努力しています。	現在は、それぞれの利用者の介護計画を立てるための本人、家族や関係者との話しあいには行われていない。職員との話しはしているが、ケアについて意見やアイデアを反映した介護計画には至っていない、今後に期待したい。	個々の利用者のより良い暮らしを支援するために、本人や家族の希望や意見、そして職員からの様々な意見を総合して、チームで作る介護計画を目指してほしい。
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	充分できていると思います。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	充分取り組んでいます。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていません。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	充分支援しています。	以前のかかりつけの医師も尊重し、できる限りその医療機関への受診を支援している。通院介助も家族の負担等を考慮し、管理者はじめ職員で対応している。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	していません。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。	利用者の入退院に際しては、本人の様子に加えて、家族との連絡を取りながら、必要なものは直接連絡をもらい、揃えたり、退院後の生活についての相談も医療機関との情報交換や相談をしながら対応している。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、行っています。	事業所及び管理者は、利用者の終末期にむけた方針は、明確に考えているが、事業所として、職員との話しあいや、文書化した上での契約時の家族への説明、地域の関係者関係機関等とのチームとしての支援については、十分といえない。	管理者は、終末期に向けたケアについて、家族等の負担も考慮して看取りまでのケアを考えているが、チームとして支援をしていくにあたり、その方針を文書化して、職員とも十分に話し合い、家族への説明もしながら、支援を進められるといいのではないか。
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特定の人が行っています。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の人への応援体制はとっています。	定期的な訓練は、隣の住人や近くのクリーニング店との協力を得て行われているが、日中や夜間帯、冬季等の対策については、地域との協力体制を築いていながら、これから取り組んでいきたいと意欲的である。	避難訓練では、様々な想定での災害対策が必要となり、更なる取り組みが望まれる。近隣住民の協力体制には日頃の付き合いも重要となるので、管理者はじめ職員の今後の取り組みに期待したい。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、対応しています。	日頃のケアの中では、管理者は口頭でプライバシーの確保について話しているが、定期的な研修の機会などは持たれていない。	職員は、十分にその重要性は理解し実践されているが、定期的な勉強会や研修に参加することで、毎年確認を行い対応をしていくことが望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る人は1人ぐらいです。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	十分とはいえません。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人いません。茶碗を洗ったり、オヤツの分配などです。	毎日の買い物と、近くの畑で栽培されている新鮮な野菜等を使って手作りの食事が提供されている。利用者の参加が少なく、献立や準備、後片付けなど参加されている様子は見られなかった。	日によっては、準備や後片付けを手伝う利用者もおられるが、日常的に参加してもらえよう日々の取り組みが期待される。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保は充分とはいえません。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが出来る人は1人です。他の人は総入れ歯です。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく、そのようになるように努めています。	現在は、しぐさや様子を見て排泄介助を行っているが、一人ひとりの排泄のパターンを活かしたり、排泄の自立に向けた取り組みは確認できなかった。	利用者の排泄習慣やパターンを活かして、失敗までに排泄介助ができるように排泄チェック表などを利用され、自立支援のためできる取り組みから行動されてみてはどうか。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に、寝たきり二人は水分補給を重視しています。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設の都合によることが多いです。	曜日や時間で、男性女性と決めて最低週に2回程度の入浴を支援しているが、職員等の配置により、現在は安全のために事業所の事情で決めている。入浴を嫌がる方も多いができるだけ清潔に過ごしていただけるよう配慮している。	管理者は、利用者の希望も聞きながら入浴の機会を増やしたいと考えているので、今後の取り組みに期待している。今後は、利用者が少しでも入浴を楽しめる工夫に期待する。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように、支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が支援しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、散歩などを行っています。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩程度です、特に冬期間は全く出来ません。	雪に閉ざされる真冬と猛暑の夏を除いて、できる限り玄関先に出たり、散歩、買い物へと声かけて、外へ一緒に出かけている。一人か二人ずつであるが、川沿い山沿いに散歩するには景色も空気も素晴らしい環境がある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物(オヤツ)支援をしています。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全く出来ていません。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分、出来ているとは言えません。	玄関先には、植木や草花がおかれ、ベンチで一休みもできる。出入り口には、段差を使いやすくするためスロープや手すりが工夫されていて、余裕は少ないが、工夫されている。限られた窓からの採光を最大限に利用できるよう、又利用者の見守りも考えてテーブルや椅子も置かれている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	意図的に行っています(折り紙)など。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	概ね、行っています。	居室は、こじんまりとしてそれぞれに自宅で使っていた箆笥や小物などを置かれて、居心地の良い空間になっている。ベッドの向きも、本人の希望や個々の生活スタイルによって考慮されている。換気にも気を配り、今後もより良い配慮に期待したい。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫は、できていません。		